

をつくりたいときに、あえて組版や本印刷をさせたのもそのためである。今まで自分では、印刷機は操作できないと思っていた生徒に、教師と一緒にではあるが、印刷機を使って活版印刷ができたということで一つの自信が生まれた。そのことは、その後のコミの分類、活字の返しなどに頑張って取り組む姿となって現われた。

印刷作業のように、一つの工程にも時間をかけ経験の積み重ねを必要とするものは、いかに生徒自身にその間の意欲・やる気を持続させるかが大きな問題となる。今回、紀行文集の製作と、この印刷を結びつけたことで、生活単元学習→作業学習→生活単元学習という流れの中で、生かし使う場をつくり、いろいろな経験を重ねながら意欲的に学習を続けることになった。また、印刷製本の期間の短いということで、生徒は自発的に休憩時間、放課後などに文集印刷作業に取り組み、自分たちの文集を作る目標に積極的に取り組んだ。

このことは、意欲的に作業にとりくむ作業態度を育てる上でも、大きな効果があったと思う。

### 3 生活単元「大山林間学校」を実践して

今まで、「確かな生活力を身につけた子」を目指して実践した生活単元「大山林間学校」の指導の経過を述べてきた。

指導の過程で見られた生徒のいろいろな望ましい学習行動は、そのすべてがこの生活単元学習の結果であるとは思わない。現在までの学習や生活の積み重ねが表われてきたのであろう。だが、学習中に、或は生活の場で見せたどんな小さな変化でも、我々の実践の証であると信じ、その小さな変化を大切に積み重ねる事によって、目指している子どもを育てる事につながるのだと自分たちに言いかけながら実践してきた。

生徒は、私たちが意図した方向に育ってきたのだろうか。当初目指した方向に育ってきつつあるのだろうか。指導記録の中から、特に目立った事例を取り出してみた。また、生徒の自発的な発言や行動は、学校生活の中だけにとどまらず、家庭生活の中でも見られよう。むしろ、そうした生活場面で生かされる事こそ、私たちの期待しているところである。そこで、家庭にも協力を求め、生活を記録してもらったり、日記や感想文、家庭連絡などを通して、生徒の内面や意識の持続のようすなども取り上げてみようとした。

#### (1) 学習と平行して表われた姿

㊦ ぶた汁を一人で作って見ました。……N夫

「お母さん、ぶた肉はあるか。なかったら買ってくる」と言い、自分で材料を全部買い揃えてN夫は日曜日にぶた汁を作った。6月の宿泊学習では、みそ汁がやっと作れる程度だったが、自分からすすんでとりくみ、林間学校ではぶた汁の責任者として、友だちを援助しながら、ぶた汁を作る事ができた。包丁さばきにも目を見はる進歩があった。次の文は、N夫の作文である。

……ぼくは、さつまいもをむいたり、かんづめをあけたり、つけものを切ったりしました。ぼくは上手に切れて田口先生にはめられました。(中略)すいはんは、自分の力でできたと思いました。ぼくはもうじしんがあります。

㍑) A組に負けるぞ、しっかり練習せんと……H郎

キャンドルサービスの出し物は、各クラス毎と決定し、各クラスともないしょの練習がはじまった。放送室で影絵の練習に取り組んだが、N夫がどうしてもリズムに合わせて人形が動かさない。だんだん気落ちしていくN夫に、横にいたH郎が「しっかり練習せんとA組に負けるぞ」とはげまし、動かし方を手をとって教えてやっていた。

㍒) 郵便番号を書いたか?……N夫・S子

大山から送った絵葉書は、子どもたちより2日おくれて家についた。K子は、「20円損した。自分で持って帰れば良かったのに」と言う。N夫は、4日たっても葉書が着かず、みんなから、「住所の書き方が悪かったんだ」とか「郵便番号をちゃんと書いたか」と言われ、しょんぼりしていた。5日目に葉書がついた時のようすをお母さんは次のように連絡してこられた。

「葉書がきたよ」と言うと、さっそく、住所と郵便番号をしらべ「きちんと書いとるのにどうなったんだらうなお母さん」と言い、「学校に持って行かんといけん」と、大事そうにかぼんの中に入れました。この子も手紙が出せるようになったな……と思いました。(N夫の母)

㍓) 50円で送れるか、送れないか。……N夫・H郎

「明日はいよいよ文集を送ります。文集は、大体こんな大きさです。50円で送れるかな？」帰りに、子どもたちにこんな質問を投げかけて別れた。翌朝、担任の机の上に、郵便料金早見表を写した紙が置いてあった。H郎がしらべてきたのだ。H郎は「封筒が大きいし、重たいから、50円では送れないと言い、この事は学習を通して扱われ立証された。いよいよ、郵便局に出かける段になり、N夫が「先生、ぼく切手を持ってきた」と言うので調べてみると、100円と20円切手を二枚、ちゃんと買ってきていた。「駅の売店で、『こんな大きさの本』と言ったら、『140円かかる』と言われた」と言ったので、あのN夫が……と先生ども一同驚いたり、感心したり…。

㍔) ぼくのもあるで、友だちのもあるで……S夫

文集ができ上がり、ひら仮名が $\frac{2}{3}$ 、やっと書けだしたS夫がお母さんに出した時の様子。

「お母ちゃん、ぼくがかいたのもあるで。これはM夫くんの、F夫くんのもあるで」と言ってめくって見せながら私に渡してくれました。友だちの文章も、ぼくの文章もみんな二人で読んで楽しみました。「みんながようがんばった」と大人のようなことを言い、「ぼくもこんなのがかきたいな……」と、S子さんの絵を見ながら言っていました。(S夫の母)

(2) 単元終了後に表われた目立った事例

㌦ ぶた汁は、お兄ちゃんの専門です。……H郎

H郎のお母さんが、家族を残してはじめて旅行された時の炊事は、H郎と妹の二人が受け持った。今迄、「お兄ちゃんはやれないのだから」と、手伝わせてもらえなかったが、「みそ汁とぶた汁ならお兄ちゃんの専門だ」と言う事でH郎はぶた汁、妹さんはカレーライスを作り、お父さんとおじいさんにごちそうをしたという報告が入った。「機転がきかないというのか、なんというのか、とにかく習った通りの材料が揃っていないとぶた汁は作れないと思っているようです」というお母さんの話を聞きながら、「がんばっているな……」と思った。

㌧ かん切りは、ぼくにまかせて。……F夫・N夫

野外炊飯で、各班に2個ずつかんづめが配られ、F夫とN夫は悪戦苦闘の末、先生の補助を受けてかんづめの缶を切った。それ以来F夫は、かん切り専門の係になった。「何でもできないから、失敗するからと、やらせていなかった事を反省しました」と、父からのお便りがあった。同様にN夫にとっても、かん切りが使えた事は大きな自信となり母に報告している。

㌨ あいさつをうまくやってくれてありがとう。……H郎

半日職場実習に行った。予定になかったので、あいさつの練習をしていなかったのに、急に担当の先生が「H郎、お礼のあいさつをして」と指名された。担任の方がびっくりして、うまくやれるかとドキドキしたが、H郎は落ちついて「……これからも一生懸命がんばります」まできちんとあいさつしてくれた。担当の先生は、Hが「場に応じたあいさつができるかどうか」をためされたと思う。日記に「ぼくはびっくりしました。でも、ぼくはいっしょうけんめい言いました。ぼくは、良く言えたと思います」と、自信を持って書いていた。

㌩ 先生、木はスケッチしてこよう。……M夫

枯木をテーマに、冬の風景を切り絵版面にしようと、木の参考資料を見せた時、M夫が、「先生、玄関の所の木をスケッチしたら良い」と、言い出した。外は風が冷たいので絵本ですませようとした事を反省し、木枯し中で、枯木のスケッチをした。木の形がおもしろかった事もあるが、M夫をはじめ、H郎・N夫・H雄も特徴をとらえて、おもしろい枯木をかいていた。

㌪ お面は、ぼく、自分で作りたい。……N夫

学習発表会の劇で、主役の白兔に挑戦したN夫は、「兔の面は自分で作りたい」と言って、担任をびっくりさせた。小学校の時、かちかち山の劇で兎がかぶったお面を思い出し、自分なりに工夫して作りあげようとした。耳が仲々立たないので、担任が少し手伝った事がかえって気に入らなかったが、色は全部一人で刷り上げ、最後には「自分で作った」という満足感を持った。

㌫ はじめて、自分から、担任に電話をかけてきた。……M夫

受話器は取るが、家族か親せきの人の声でなかったら、飛んで逃げたり、便所や風呂場にかくれてしまうM夫が、12月19日、はじめて自分から電話をかけてきた。「熱が出て、明日のクリスマス

ス会に出られないかもしれない」という連絡だった。林間学校や学習発表会の張り切った学習態度が自信となって、勇気をもって電話をかけてきたにちがいない。自信さえつけば、M夫の能力は、今の何倍にも発揮できると確信させたでき事だった。

中 まっ先に手をあげて先生をおどろかす。……N夫

固い殻の中にとじ入り、自分から発言したりする事はほとんどなく、質問をしても数分間待たないと質問に答えられなかったり、全く別の事を考えていて質問がわからないので有名だったN夫が、二学期の後半から自分から「ハイ、！」と手をあげる回数が目立ちはじめ、学習中の話し合いにだんだん参加するようになった。家では自室にとじ込んでぼんやりしていたり、弟や母に暴言をはくなどの二面性を持っていたが、最近は家族と一緒に過す事が多くなり、冬休みには、「みんなでトランプがしたい」と母親に要求し、家族でトランプを楽しんだ事が報告された。地域では、特殊学級の同級生以外は、道で出逢っても顔をそむけたり、絶対に遊ばなかったのに、最近は、公民館で卓球をしたり、バトミントンをする仲間に入るようになった。二学期の終わりに、「二学期に一番よくしゃべるようになったり、勉強をがんばった人は誰だろう」と生徒に問いかけると、生徒は一せいにN夫を指さした。

以上、学習の経過に合わせて見られた、生徒の特に目立った行動を挙げた。私たちの知っているのは、生徒の生活のほんの一部であり、ここに挙げたのは、またその中のほんの一部分である。生徒たちは、もっといろいろな形で育ち、いろいろな所にその効果を生かして生活しているにちがいない。私たちは、表面に表われたこれらの望ましい行動と、それを支える学級集団や学習の雰囲気からそれを感じ取るのである。

#### 4 表現化に視点をあてた音楽の指導について

私たちは、精薄児の教育にあたって、ただ社会生活に何とか適応し、職業をもって自立できるようになることをめざす以前に、美しいものを美しいと感じ、周りの動植物をいつくしみ、友だちを思いやり、目上の人を尊敬し、常に感謝の気持ちを忘れず、心安らかな日々を送ることができる全人的な人格に育てたいと思っている。そのための手だての一つとして音楽指導があげられる。

そこで、音楽指導について、もっと具体的に述べてみたい。

音楽に対する興味・関心を持たせ、学習に集中して取り組ませるなかで、音楽の好きな生徒を育てるための手だてを、あれこれと考えてみた。学習は、ただ単に技能を高め、音楽的な理解を深めるためのものであってはならず、活動のなかでは、『教師は先生ではない。共に学習する友だちである。』という意識が失なわれてはならない。と同時に、自分一人が楽しむものではなく、そこには、教師も友だちも共に楽しむ活動が生まれてこなければならないと思うのである。

共に学ぶ姿勢の中にも、教師として心がけなければならないことを頭に置き、自身を戒めている。

① 自ら進んでやろうとする意欲を持たせる。……賞賛・激励・競争等、時に応じて生徒の心に訴えかける。